



啐啄之機

<校長だより>

平成28年5月10日

第2号

新庄市立沼田小学校

文責：齋藤 宏

上手な時間の使い方、家庭との連携が第一です！

4月15日の教育委員会だよりで、27年度の全国学力・学習状況調査の結果から、新庄市の子どもたちは、県や全国に比べて「テレビ・ゲームの時間が長く、家庭学習の時間が短い」という実態があるので、親子で「我が家のルール」づくりをお願いします。というお知らせがありました。

本校の子どもたちにも、市全体と同じ傾向が見られました。そのため、昨年度より、「ハッピーぬまたカレンダー」に取り組んだり、冬休みや春休みでの「メディアコントロールのための家族との約束」を決めたり、家庭学習の内容の充実を図ったり、家庭での読書習慣の形成を図ったり、お手伝いを励行したりと、子どもたちの家庭生活の充実をねらいとして、いろいろな取り組みを行ってきました。

今後も継続して、更なる習慣化や充実を図っていく予定ですが、「**家庭での上手な時間の使い方**」の育成のためには、もちろん**家庭との連携が第一**です。

教育委員会だよりでは、勉強や読書、手伝いに使う時間を、テレビやゲームの時間よりも長くするための家庭へのお願いとして、「学習への励まし」「子どもからの質問への返答」「ノート・プリント・テスト類に目を通して、努力を認める」の三つがありました。本校で取り組んでいる活動の、暗唱詩への挑戦や親子読書、算数難問チャレンジ等でも、声かけや励ましや、子どもと一緒にの挑戦などを、是非お願いします。



ゲーム「人間知恵の輪」の様子
1年生を迎える会より

渡部和子さんの著書「置かれた場所で咲きなさい」には、「時間の使い方は、そのままいのちの使い方になる。」という言葉があります。

これを目にしたとき、はっとさせられました。限りある与えられたいのちをどう使うか、それはどう生きるかであり、どう生活するかであるわけですが、そう考えると、「時間をどう使うか」は、その人の生き方につながっていく、とても

大切なことであるということに気付かされました。

1日、24時間という時間は、誰にでも平等にあります。人それぞれ、時間の使い方は様々ありますが、それを上手に使う人と、無駄に使ってしまう人では、後になればなるほど大きな違いとなって現れてきます。また、同じことをしていても、それにどう取り組んだかによって、結果も大きく違ってきます。

出来るだけ、時間を上手に、そして、有効に使える子どもに育てていきたいものです。「時間の使い方は、そのままいのちの使い方になる。」のですから。

今年度も暗唱詩に挑戦します！

5月から、子どもたちは、校長課題の「暗唱詩」に挑戦します。5月は3・4年生で、6月は5・6年生で、7月が1・2年生です。これから、この順番で回ります。挑戦のし方は、まず、担任の先生に聞いてもらい、合格したら、校長室に来て暗唱詩を発表します。めあてにそって、間違わずに言えたら合格になります。合格すると、合格証がもらえます。

ねらいは、下記の通りです。

—暗唱詩のねらい—

- ① 声に出しての練習や発表を通して、脳の前頭前野を鍛え、児童の学習力を伸ばします。
- ② 表現を工夫して発表したり、他の人の発表を聞き合ったりして、児童の表現力を高めます。
- ③ 校長室で発表することにより、適度の緊張感の中でも、発表できる力を高めます。
- ④ 合格体験を通して、児童が認められる機会を増やし、一人一人に自信を付けます。
- ⑤ 校長が児童一人一人とのふれあいを通して、児童理解を深めます。

これからも、3か月に1回挑戦する月が回ってきますので、そのときは、ご家庭でも是非練習を聞いてあげてください。また、おうちの方も、子どもさんと一緒に暗唱に挑戦してみてください。子どもたちの全員合格をめざして、がんばらせたいと思います。

《算数難問にも挑戦します》

週末の宿題の一つとして先週末からスタートしました！

時には、おうちの方も一緒に挑戦してみてください！！

1 ねらい

- (1) 文章題に、思考力を働かせて挑戦させ、粘り強く取り組み、自力で考えようとする意欲や態度を育む。
- (2) 新たな問題に対して、教師がやり方を教えなくても、自ら考えることができる子どもを育成する。
- (3) 「算数検定」や「算数・数学チャレンジ in やまがた」に挑戦する子を増やす。

2 問題への挑戦の仕方

- (1) 週末に、大問、一問にじっくり挑戦することを原則とします。
- (2) まず、「数字や言葉」を「絵や図」に変えていきながら、問題の意味を理解する。
- (3) 「数字や言葉」と「絵や図」を行き来しながら、正確にイメージできるようにする。
- (4) 描いた「絵や図」をもとに、解き方を考えていく。「絵や図」を、「式や線分図」などと結びつけながら解いていく。
- (5) おうちの人力を借りずに、自力で取り組むことを原則とするが、親子で一緒に挑戦してもよい。その時は、子どもに気付かせ、わかる喜びを感じられるようにして一緒に考える。
- (6) 書いた考えは消さないで、考えの移り変わりが見えるようにする。
- (7) 時には、答えも事前に知らせ、解き方について考えさせるときもある。(解き方に焦点化)
- (8) 自分の解き方を、他の人に説明できるようにする。(ここまでできれば完璧です。)
- (9) ジャンプタイムや算数の時間などに解き方について交流する。
- (10) 挑戦した問題は、ファイルに綴じて学校保管にし、活用していく。